

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターゆくはしみらい		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 15日		2026年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2026年 2月 15日		2026年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 4月 1日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心して過ごせる環境が整っている点は、多くの保護者様から高い評価をいただいています。様々な状況や特性を持つお子様に柔軟に対応できる支援体制が整っていることも強みです。	安心して過ごせる環境づくりを第一に考え、安全面・衛生面への配慮を徹底しています。日々の支援の中で小さな成長や変化を見逃さず、保護者様と共有することで信頼関係の構築を図っています。	職員の専門性向上のための研修や学びの機会を増やし、より質の高い支援を提供できる体制を整えます。保護者様との連携をさらに深め、ご意見やご要望を積極的に取り入れた運営を行ってまいります。
2	日々の小さな変化に気づき、きめ細やかな観察と対応ができていく点が信頼につながっています。説明が丁寧で分かりやすく、保護者様への情報共有や助言が適切に行われている点も評価されています。	・お子様一人ひとりの特性や体調、情緒の変化を細かく把握し、その日の状態に応じた支援を行っています。また、保護者様への説明やフィードバックを丁寧に行い、不安や疑問を軽減できるよう努めています。	支援内容の見える化を進め、より分かりやすい説明や情報提供に努めます。
3	利用者としてではなく、一人ひとりに親身に関わる姿勢が安心感につながっています。	職員間での情報共有を密にし、統一した支援が行えるよう意識しています。	お子様一人ひとりに合わせた個別支援のさらなる充実を図ってまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境面・設備面において、より安全性・機能性を高める余地がある。	日々の支援業務を優先する中で、環境改善や新たな体制構築に十分な時間を割けていないこと。	施設の定期点検を実施し、優先順位を明確にした計画的な修繕・環境整備を進める。安全面に関わる箇所については迅速に対応し、安心できる環境づくりを徹底する。
2	医療的ケアが必要な児童への対応体制が十分に整っておらず、受け入れに制限がある。	医療的ケア児への対応に必要な専門職(看護職員等)の配置や人材確保が難しいこと。職員の医療的ケアに関する知識・技術の習得機会が限られていること。	医療的ケアに関する研修機会を確保し、職員の知識・対応力の向上を図る。既存の人員体制を活かしながら、役割分担や支援方法の見直しにより、より柔軟な受け入れ体制の構築を目指す。
3	施設の老朽化に伴い、清潔は保たれているものの修繕や環境整備が必要な箇所があるため、計画的な改善が求められる。	建物や設備の経年劣化により、修繕が必要な箇所が増えてきていること。施設整備や設備投資に関する予算確保が十分でないこと。	補助金や助成制度の活用を検討し、設備整備や人材確保につなげる。職員からの意見や現場の気づきを反映させる仕組みを強化し、継続的な改善を図る。